

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 清明小学校 第1学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法(促音・拗音・長音・助詞「は」「を」「へ」)の使い方が定着していない児童が各クラス5割以上いるため、文法の理解と定着が必要である。</li> <li>・学年の実態としては、話すことが苦手な児童が2割程度、聞くことが苦手な児童3割程度いる。</li> <li>・読書経験の差から、読書への興味関心や意欲、読書量については個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法の定着のために、手を叩いて言葉の拍を確認したり、文を書く時間を確保したりする。ワークシートを使い、書きたいことを順序よく整理してから、文を書くようにする。</li> <li>・友達の発表を聞いて、質問したり感想を言ったりする場面を設定することで、聞く姿勢を養う。話型を示すことで、事柄の順序を考えて話すことができるようにする。</li> <li>・書くことに苦手意識があるため、2学期から日記に取り組み、日常的に書くことに取り組む。</li> <li>・図書館支援員と連携し、いろいろなジャンルの本の読み聞かせをしたり、児童同士が好きな本を紹介したりする活動を設定する。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の合成と分解が正確にできない児童が2割程度いる。</li> <li>・学力テストの調査で示された場面を解釈し、立式していく問題の正答率が低かったが、1年でも、繰り上がりのないたし算、ひき算の計算はできるが、立式が出来ない児童がいる。文章の意味を理解して、式に表すことが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で、数の合成と分解の復習を繰り返す行う。</li> <li>・立式ができた児童には、「なぜその式になったのか。」理由を考えさせる。</li> <li>・自分の考えを表現することができるように、隣同士で話し合う機会を作っていく。</li> </ul>	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や生き物の観察に時間を要して、気付くことはできても、文章に表せない児童がいる。</li> <li>・学力テストの結果からは、聞くこと、話すことに課題があり、1年生でも、小グループで自分の考えを言うことができない児童が3割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通体験を設定することで、友達と自分の考えを共有し、思いや願いがもてるようにする。</li> <li>・説明することは簡潔に話し、観察する時間と共有する時間の設定をする。</li> <li>・観察する前に、色や形等、観察する項目を全体で確認する。</li> <li>・よくできている児童の観察カードをお手本として全体に共有する。</li> <li>・発表する活動で自分の思いや願いを伝えられるようにする。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍に合わせて正しくリズムを打つのが苦手な児童が3割程度いる。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの奏法でつまずく児童がいる。拍に合わせて旋律を演奏することが苦手な児童が3割程度いる。</li> <li>・むやみに大きな声で歌ったり、自分勝手に速度で歌ったりする児童が3割程度いる。</li> <li>・学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。音楽の授業でも聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍打ちとリズム打ちを意識させる。リズム打ちに小物打楽器の使用や身体表現などを取り入れ、楽しく活動しながら身に付くようにする。</li> <li>・必要な児童に鍵盤ハーモニカの個別指導を行う。</li> <li>・体の動きを伴った活動や互いに聴きあう活動などを取り入れながら、丁寧な歌い方、きれいな発声や発音で、声を合わせて歌うことを指導する。</li> <li>・聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動をより丁寧に行う。(音楽のもとを音楽に関連させて)</li> </ul>	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在までの生活体験の違いから、はさみやのり、テープを使う量などが苦手な児童が4割程度いる。</li> <li>・表現活動が不十分であるため、自分の思いを表現するのが苦手な児童が2割程度いる。</li> <li>・学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。図工の授業でも、作品作りや鑑賞活動において、自分の考えを伝える力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画に基づいて、クレヨン、絵の具、ハサミなど、段階的に指先を使う活動を多く取り入れ、用具の基本的な使い方に慣れさせる。</li> <li>・色々な向きで見せて見方を変えたり、使いたい色や、表し方を選択させたりして、問いかけて思いを聞き、思いを作品につなげられるように、状況に応じた指導を行う。</li> <li>・作品作りや鑑賞活動において、伝え合う活動を意図的・計画的に行っていく。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの運動経験の個人差が大きい。</li> <li>・基本的な動きや技能を身に付けることが不十分な子や、その時の気分によって運動をしない児童が各クラス1割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士での教え合い活動(得意な子から不得意な子への教え合い、声かけなど)や個別指導を取り入れていく。</li> <li>・たくさん褒めることや、それぞれの運動の特性や楽しさを味わわせる。場や授業展開を工夫することで、「楽しそう」「やってみたい」をより多く引き出し、どの運動にもすすんで関わられるようにする。学習カードで自分の目標を設定し、意欲を引き立てる。</li> <li>・コーディネーショントレーニングを通して、体をイメージ通りに動かすことができるようにする。</li> </ul>	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の文章から、大枠や価値項目などについて理解することが難しいことがある。</li> <li>・登場人物の行為や気持ちを自分のこととして考えることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面絵を書画カメラで大きくして指差しをしながら説明を加えたり、黒板に視覚的に掲示したり、体験的に授業展開を行ったり、児童が理解しやすいよう工夫する。</li> <li>・「自分だったらどんな気持ちになるか」を学習カードに記載したり、友達の意見から自分に近い意見を考えさせたりなどを授業で繰り返し設定したりする。</li> <li>・学校生活でいろいろな体験を共有することで、自分ごととして捉えさせる。</li> </ul>	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。